



# 用語解説

## JED基本情報用語

### 揭示用 参考資料

2018年8月1日  
JED-Project



# ASA-Grade

補足 : ASA physical status とはアメリカ麻酔科学会における全身状態分類である

1

- 大きな問題はない

2

- ちょっと体調が悪いが、日常生活は普通に送れている

3

- 体調はかなり悪く、日常生活が不便である

4

- 生死を脅かす全身疾患があり、日常生活は不可能である

5

- 瀕死である

# 喫煙

## 非喫煙者

- 今まで合計100本又は6カ月以上吸わず、過去一月も吸っていない)

## 前喫煙者

- 今まで合計100本又は6カ月以上喫煙、過去一月は吸っていない)

## 現在喫煙者

- 今まで合計100本又は6カ月以上喫煙、過去一月毎日喫煙)

# 飲酒

飲酒日の1日当たりの飲酒量

清酒1合(180ml)の目安:

ビール中瓶1本(約500ml), 焼酎35度(80ml), ウイスキーダブル1杯(60ml), ワイン2杯(240ml)

## 習慣飲酒者

- 週に3日以上飲酒する人

## 非習慣飲酒者

- 飲酒するが週2回以下月3回以上の人

## 機会飲酒者

- 飲酒するが月2回以下の人

## 非飲酒者

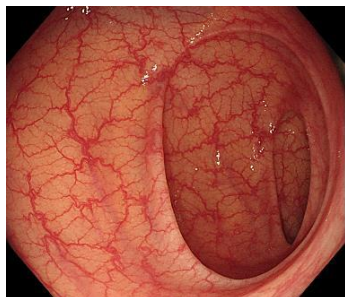
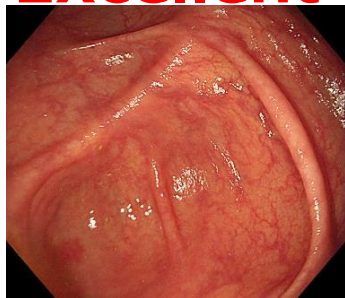
- 飲酒をしない人

## 現在禁酒者

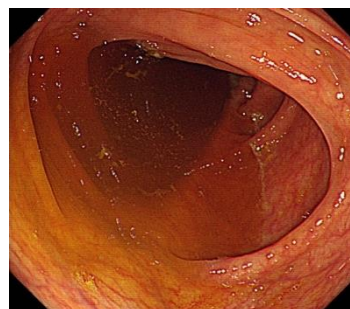
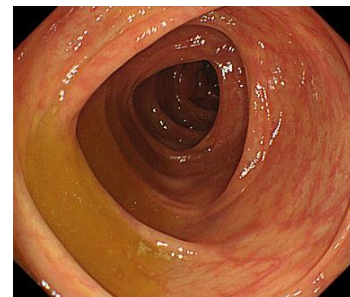
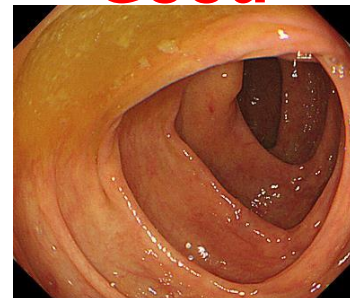
- 以前は習慣飲酒であったが現在はやめている人

# 腸管前洗淨 (大腸内視鏡検査)

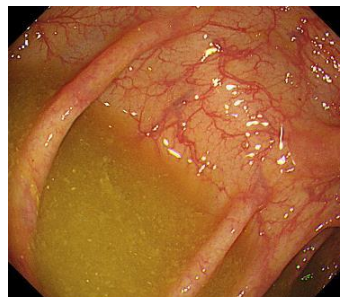
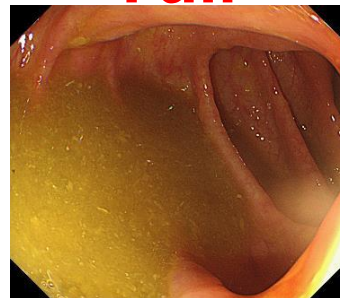
**Excellent**



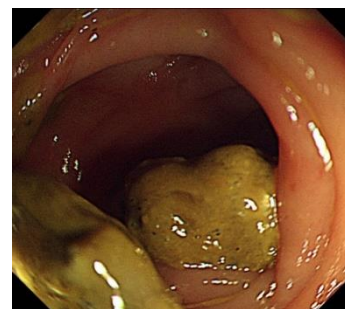
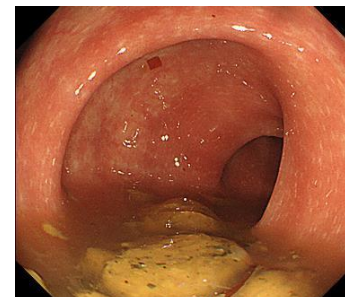
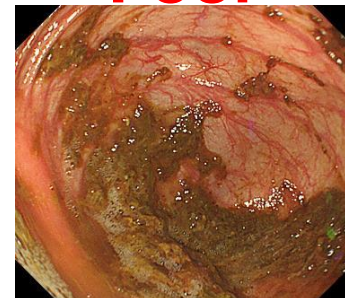
**Good**



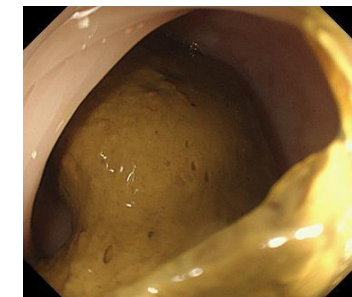
**Fair**



**Poor**



**Inadequate**



**Excellent**

ごく少量の透明な液体の貯留のみで、95%以上の粘膜面が観察可能

**Good**

透明な液体が粘膜面の5~25%を覆うが、90%以上の粘膜面が観察可能

**Fair**

吸引もしくは洗淨不能な半固形便を認めるが、90%以上の粘膜面が観察可能

**Poor**

吸引もしくは洗淨不能な半固形便を認め、90%以下の粘膜面が観察可能

**Inadequate**

再度前処置が必要な状態

# ERCP難度 (Schutz分類)

※治療の際は Grade 数値にXをつける

	診断方法	治療
Grade 1	カニューレーション 生検と細胞診	EST 10mm未満の胆管結石切石 EBD/ENBD 中下部胆管狭窄例へのStenting 予防的膵臓ステント挿入
Grade 2	Billroth II再建例 副乳頭カニューレーション	10mm以上の胆管結石切石 肝門部腫瘍に対するステント留置 良性胆管狭窄
Grade 3	乳頭括約筋内圧検査 Roux-en-Y再建例 膵・胆道内視鏡検査	Billroth II再建例の治療手技 肝内結石 膵管治療 内視鏡乳頭切除 仮性嚢胞ドレナージ

# ERCP関連手技における 重大偶発症の定義とグレード分類

Cotton PB, et al. A lexicon for endoscopic adverse events: report of an ASGE workshop. GIE 71(3), 446-454 ,2010より

	軽症	中等症	重症
出血	ヘモグロビン値の低下が2gを越える臨床的な失血で、輸血が必要でないもの（出欠の定義は、内視鏡的な出血ではなく、明らかなヘモグロビン値の低下を指す）	4単位以下の輸血を要するが、IVRや外科的治療は不要なもの	5単位以上の輸血、もしくは、IVRや外科的治療
穿孔	非常に軽微な液体や造影剤の流出で、3日以内の輸液や吸引で治療可能なもの	明らかな穿孔で、4-10日の治療が必要なもの	10日を越える治療が必要なもの、もしくは、経皮的・外科的治療が必要なもの
ERCP後膵炎	臨床的な膵炎症状があり、かつ、施行後2-4時間を越えて、正常値の3倍以上のアミラーゼ値を示し、2-3日の入院が必要なもの	4-10日の入院が必要なもの	10日を越える入院が必要なもの、もしくは、出血性膵炎、皮下出血、仮性嚢胞、経皮的・外科的治療が必要なもの
感染（胆管炎）	1-2日間にわたり38度以上の発熱を示すもの	熱発や敗血症のため、3日以上入院加療・内視鏡的・経皮的治療が必要なもの	敗血症によるショック、もしくは外科的治療が必要なもの
バスケット嵌頓	自然に解除された、もしくは、再度の内視鏡処置で解除されたバスケット嵌頓	経皮的治療	外科的治療

注：

- ・術中の出血は、術後のヘモグロビン値が明らかに低下しない(2g以上)場合は、偶発症とはならない
- ・アミラーゼ値が性状の3倍以上を示すが、急性膵炎に特有の腹部症状がないものは、incidental hyperamylasemiaであり、adverse eventではない。そのため、JEDプロジェクトでは、翌日のアミラーゼ値は収集するが、偶発症としては、「無し」を選択したままとして、日本におけるincidental hyperamylasemiaの頻度を算出する目的で、翌日のアミラーゼ値は、ERCPにおける必須項目とする



# *JED-Project*